

ロジスティクス環境会議  
第2回 広報・普及専門委員会 議事録

・日 時：2004年8月5日(木) 15:00～17:00

・場 所：東京・港区 (社)日本ロジスティクスシステム協会 会議室

・出席者：10名

・議 案：

- 1) ニュース、ジャーナルについて
- 2) シンポジウム等の開催について
- 3) 行政動向とその対応について
- 4) オブザーバー会議について

・開 会

定刻、小西委員長より、開会が宣された。

・報 告【資料1】

事務局より、資料1に基づき、各委員会の活動状況の報告が行われた。

・議事の経過

1. 議 事

小西委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) ニュース、ジャーナルについて【資料2 - 1、2 - 2】

事務局より、資料に基づき、ニュース、ジャーナルの原案の説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見交換の内容】

【委 員】ニュースの発行頻度は2ヶ月に1回となっているが、それ以外には発信しないのか。

【事務局】2ヶ月に1回というのは、原則であり、発信すべき内容があるときには、臨時にその都度発信したい。

【委 員】ニュース、ジャーナル共に、目的や対象等を明確にした方が良い。

【委 員】第1号の原案の内容については、簡略的になり過ぎているため、概要をもう少し詳しく書いた方が良いのではないかと。

【委 員】ジャーナルの作成者が一人になっているが、作成者の考え方に偏りができるのではないかと。

【事務局】広報・普及専門委員会の委員の方々にも執筆をお願いしたいところであるが、執筆者の負担が重くなると考えている。鈴木先生以外にも適当な方がいらっしゃれば、事務局に紹介いただきたい。また、内容に偏りが出ないようにするためにも、原稿の確認を広報・普及専門委員会メンバーをお願いしたいと考えている。

【委員】ニュースの原案、ジャーナルの原稿等の確認で委員にメールを流す場合は、他委員のコメントも把握できた方がいいため、配信方法はＢＣＣではなく、配信先が配信者にわかるようにしてほしい。

以上のような意見交換を踏まえ、目的、編集方針等を事務局にて整理したうえで、ニュース、ジャーナルの原案（原稿）を作成し、広報・普及専門委員メンバーにメールにて確認し、作業を進めることが確認された。

ニュース、ジャーナル共に作成の流れについては、資料のとおり行うこととし、ニュース原案、ジャーナル原稿をメールにて委員送信する際は、配信先が配信者にわかるようにする。

## 2) シンポジウム等の企画について【資料3】

事務局より、資料に基づき、シンポジウムの企画案について説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見交換の内容】

【委員】環境会議のメンバー以外にも、広く情報発信することが当委員会の大きなミッションであるとい認識している。シンポジウムの規模は500名程度を考え、参加料も高額にならないようにするべきではないか。

【委員】B案をベースに企画を再度検討してほしい。現状では、海外の動向よりも、国内企業の事例を増やしてほしい。また、B案に関係各省と環境会議の内容紹介を加えても良いのではないか。

【委員】プログラムとしては、午後半日くらいが良いのではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、開催時期も含めて事務局にて企画を再検討し、広報・普及専門委員会のメンバーにメールにて確認いただき、意見等を整理したうえで、第3回企画運営委員会に諮ることが確認された。

## 3) 行政動向とその対応について【資料4】

事務局より、資料に基づき、パブリックコメントとグリーン物流パートナーシップ会議に関する説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

### (1) パブリックコメントに対する対応

【主な意見交換の内容】

【委員】パブリックコメントについては、関係各省のホームページに掲載されてから締切り期日まで非常に時間が短いため、組織的な対応は難しいのではないか。

【委員】広報・普及専門委員会としては、パブリックコメントが出されたことをメンバーに情報発信するというスタンスで良いのではないか。

【委員】重要度が高いものについては、広報・普及専門委員会および企画運営委員会として検討する場を緊急に設け、対応すれば良いのではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、パブリックコメントについては、以下のような対応することが確認され、第3回企画運営委員会に諮ることが確認された。

原則として、パブリックコメントが出されたことは環境会議メンバーにCGLニュースで情報発信する。

関係各省から出されたパブリックコメントは、先ず、広報・普及専門委員会のメンバーにて、その内容を確認し、重要度が高いものについては、企画運営委員会を緊急に開催し、対応を検討する。

#### (2) グリーン物流パートナーシップ会議に対する対応

##### 【主な意見交換の内容】

- 【委員】グリーン物流パートナーシップ会議（以下、パートナーシップ会議）の趣旨は理解できるが、環境会議と同じような会議体を他に設けるとするのは、参加する企業としては困る。
- 【委員】1,400万トンの削減目標が記載されているが、その数値目標が産業界に対して義務化されることは反対である。
- 【委員】万が一、数値目標が義務されるような場合は、数値目標を達成した企業に対して、表彰や減税等のメリットが享受できる仕組みを検討するべきではないか。
- 【委員】数値目標については、環境会議等で産業界として自主的に目標を定めるのであれば、尊重していきいたいと考えている。

以上のような意見交換を踏まえ、パートナーシップ会議については、広報・普及専門委員会で結論を出すテーマでないため、第3回企画運営委員会の場合にて、改めて検討を行うことが確認された。

#### 4) オブザーバー会議の企画（案）について【資料5】

事務局より、資料に基づき、オブザーバー会議の企画（案）について説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

##### 【主な意見交換の内容】

- 【委員】オブザーバー会議については、産業界として実現したいことを、関係各省と意見交換を重ね、産業界と行政が共に作り上げる場にしていくことが必要ではないか。
- 【委員】産業界の意向を行政側に負担にならないような形で投げかけができるようにすることがポイントではないか。
- 【委員】産業界、環境会議としての結論に至る前の段階でも、現時点で抱えている問題や課題を気軽に行政に伝えることができるような場にしていきたい。
- 【委員】産業界と行政が垣根の無い環境を作るためにも、先ずは事務局が定期的にオブザーバーの関係各省に足を運ぶことが必要ではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、9月下旬とされているオブザーバー会議については、延期とすることが確認された。各委員会の活動状況を見て、課題等を整理したうえで、オブザーバー会議の企画を再度検討することとし、それまでは、事務局を中心にオブザーバーの関係各省に足を運び、活動状況等を報告しながらコミュニケーションを図るようにすることが確認された。

5) その他

今後のスケジュールについて

次回委員会は、以下のとおり開始することが確認された。

第3回広報・普及専門委員会

日 時：8月31日(火) 10 - 12時

会 場：未定

2. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、小西委員長は閉会を宣した。

以 上